

津山市個人情報保護条例

平成 15 年 3 月 24 日

津山市条例第 2 号

改正 平成 15 年 9 月 22 日条例第 19 号

平成 17 年 1 月 14 日条例第 4 号

平成 17 年 6 月 29 日条例第 101 号

平成 27 年 3 月 24 日条例第 7 号

平成 27 年 9 月 24 日条例第 48 号

平成 28 年 3 月 23 日条例第 3 号

平成 29 年 3 月 22 日条例第 4 号

平成 29 年 9 月 20 日条例第 21 号

目次

第 1 章 総則（第 1 条～第 5 条）

第 2 章 個人情報の適正な取扱いの確保（第 6 条～第 15 条）

第 3 章 自己情報の開示等（第 16 条～第 25 条）

第 4 章 審査請求（第 26 条・第 26 条の 2）

第 5 章 事業者が保有する個人情報の保護（第 27 条～第 30 条）

第 5 章の 2 特定個人情報に関する特例（第 30 条の 2）

第 6 章 雑則（第 31 条～第 34 条）

第 7 章 罰則（第 35 条～第 38 条）

付則

第 1 章 総則

（目的）

第 1 条 この条例は、個人情報の適正な取扱いの確保に関し必要な事項を定めるとともに、本市が保有する個人情報の開示、訂正等を請求する権利を保障することにより、個人の権利利益の保護を図り、もって公正で信頼される市政の実現に寄与することを目的とする。

（定義）

第 2 条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

（ 1 ） 個人情報 生存する個人に関する情報であって、次のいずれかに該当するものをいう。

ア 当該情報に含まれる氏名，生年月日その他の記述等（文書，図画若しくは電磁的記録（電子的方式，磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録をいう。第４号及び第３７条において同じ。）に記載され，若しくは記録され，又は音声，動作その他の方法を用いて表された一切の事項（個人識別符号（行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律（平成１５年法律第５８号）第２条第３項に規定する個人識別符号をいう。イ及び第５号において同じ。）を除く。）をいう。第５号及び第９号イにおいて同じ。）により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と照合することができ，それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）

イ 個人識別符号が含まれるもの

（２） 実施機関 市長（地方公営企業法（昭和２７年法律第２９２号）第８条第２項の規定により管理者の権限を行う市長を含む。），教育委員会，選挙管理委員会，公平委員会，監査委員，農業委員会，固定資産評価審査委員会及び議会をいう。

（３） 事業者 法人その他の団体（国及び地方公共団体を除く。）及び事業を営む個人をいう。

（４） 行政文書 実施機関の職員が職務上作成し，又は取得した文書，図画，写真，フィルム及び電磁的記録であって，当該実施機関の職員が組織的に用いるものとして，実施機関が保有しているものをいう。ただし，次に掲げるものを除く。

ア 書籍，雑誌，新聞その他一般に頒布し，又は販売することを目的として発行されているもの

イ 広報用の資料その他一般の利用に供することを目的として管理しているもの

ウ 歴史的若しくは文化的な資料又は学術研究用の資料として特別に保有しているもの

（５） 個人情報取扱事務 個人の氏名，生年月日その他の記述等又は個人識別符号により当該個人を検索し得る状態で個人情報を記録した行政文書を使用する事務をいう。

（６） 電子計算機処理 電子計算機を使用して行われる情報の入力，蓄積，編集，加工，修正，更新，検索，消去，出力又はこれらに類する処理をいう。ただし，専ら文章を作成し，又は文書若しくは図画の内容を記録するための処理その他市長が定めるものを除く。

（７） 開示 閲覧若しくは視聴に供し，又は写しを交付することをいう。

（８） 保有個人情報 行政文書に記録されている個人情報

(9) 個人情報ファイル 保有個人情報を含む情報の集合物であって、次に掲げるものをいう。

ア 一定の事務の目的を達成するために特定の保有個人情報を電子計算機を用いて検索することができるように体系的に構成したもの

イ アに掲げるもののほか、一定の事務の目的を達成するために氏名、生年月日その他の記述等により特定の保有個人情報を容易に検索することができるように体系的に構成したもの

(1 0) 特定個人情報 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成 2 5 年法律第 2 7 号。以下「番号法」という。）第 2 条第 8 項に規定する特定個人情報をいう。

(1 1) 情報提供等記録 番号法第 2 3 条第 1 項及び第 2 項（これらの規定を番号法第 2 6 条において準用する場合を含む。）に規定する記録に記録された特定個人情報をいう。

(1 2) 保有特定個人情報 行政文書に記録されている特定個人情報をいう。

（実施機関の責務）

第 3 条 実施機関は、この条例の目的を達成するため、個人情報の適正な管理のために必要な措置を講じるとともに、あらゆる施策を通じて個人情報の保護に努めなければならない。

（事業者の責務）

第 4 条 事業者は、個人情報の保護の重要性を認識し、事業活動に伴う個人情報の取扱いに当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう努めるとともに、個人情報の保護に関する市の施策に協力しなければならない。

（市民の責務）

第 5 条 市民は、個人情報の保護の重要性を認識し、自己に関する個人情報の適切な管理に努めるとともに、他人に関する個人情報の取扱いに当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう努めなければならない。

第 2 章 個人情報の適正な取扱いの確保

（適正収集）

第 6 条 実施機関は、個人情報を収集するときは、あらかじめ個人情報取扱事務の目的を明確にし、その目的を達成するために必要な範囲内で、適正かつ公正な手段により行わなければならない。

（収集禁止事項）

第7条 実施機関は、思想、信条及び宗教に関する個人情報並びに社会的差別の原因となるおそれのある個人情報を収集してはならない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、この限りでない。

- (1) 法令又は条例（以下「法令等」という。）に定めがあるとき。
- (2) 実施機関が津山市情報公開・個人情報保護制度運営審議会条例（平成15年津山市条例第20号）に基づく津山市情報公開・個人情報保護制度運営審議会（以下「審議会」という。）の意見を聴いて、個人情報を取り扱う事務の性質上当該個人情報が必要不可欠であると認めるとき。

（収集方法の制限）

第8条 実施機関は、個人情報を収集するときは、本人からこれを直接収集しなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、この限りでない。

- (1) 法令等に定めがあるとき。
- (2) 本人の同意があるとき。
- (3) 出版、報道等により公にされているとき。
- (4) 人の生命、身体又は財産を保護するため、緊急かつやむを得ないと認められるとき。
- (5) 所在不明、心身喪失等の事由により、本人から収集することが困難であるとき。
- (6) 争訟、選考、指導、相談等の事務を処理する場合であって、本人から収集したのでは、当該事務の目的を達成することができないと認められるとき、又は当該事務の適正な執行に著しい支障が生じると認められるとき。
- (7) 他の実施機関から収集する場合であって、当該個人情報を収集することに相当の理由があると認められるとき。
- (8) 国、他の地方公共団体又は公共的団体（以下「国等」という。）から収集することが事務の執行上やむを得ないと認められる場合であって、本人の権利利益を不当に侵害するおそれがないと認められるとき。
- (9) 前各号に掲げる場合のほか、実施機関が審議会の意見を聴いて、公益上特に必要があると認めるとき。

2 申請、届出その他これらに類する行為に伴い、当該行為者以外の個人情報が収集されたときは、当該個人情報は、前項第2号の規定に該当して収集されたものとみなす。

（利用及び提供の制限）

第9条 実施機関は、保有個人情報について、その収集目的の範囲を超えた利用又は実施機

関以外のものへの提供（以下「目的外利用等」という。）をしてはならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、この限りでない。

- （１） 法令等に定めがあるとき。
- （２） 本人の同意があるとき。
- （３） 人の生命、身体又は財産を保護するため、緊急かつやむを得ないと認められるとき。
- （４） 実施機関の内部において利用する場合又は国等若しくは他の実施機関に提供する場合であって、利用するもの又は提供を受けるものの所掌する事務に必要な限度で使用し、かつ、当該保有個人情報を使用することに相当の理由があると認められるとき。
- （５） 前各号に掲げる場合のほか、実施機関が審議会の意見を聴いて、公益上特に必要があると認めるとき。

（提供先に対する措置要求）

第１０条 実施機関は、実施機関以外のものに保有個人情報を提供する場合において、必要があると認めるときは、提供を受けるものに対し、当該保有個人情報の使用目的若しくは使用方法の制限その他必要な制限を付し、又はその適正な取扱いについて必要な措置を講ずることを求めなければならない。

（情報機器の結合による提供の制限）

第１１条 実施機関は、実施機関以外のものに対して、通信回線を用いた電子計算機その他の情報機器の結合（保有個人情報を実施機関以外のものが随時入手し得る状態にするものに限る。）による保有個人情報の提供をしてはならない。ただし、審議会の意見を聴いたうえで、公益上の必要があり、かつ、個人の権利利益を侵害するおそれがないと実施機関が認めるときは、この限りでない。

（個人情報取扱事務の届出）

第１２条 実施機関は、個人情報取扱事務を新たに開始しようとするときは、次に掲げる事項をあらかじめ市長に届け出なければならない。届け出た事項を変更しようとするときも、同様とする。

- （１） 個人情報取扱事務の名称及び内容
- （２） 個人情報の収集目的
- （３） 個人情報の収集対象者の範囲
- （４） 個人情報の記録項目
- （５） 要配慮個人情報（本人の人種、信条、社会的身分、病歴、犯罪の経歴、犯罪によ

り害を被った事実その他本人に対する不当な差別、偏見その他の不利益が生じないようにその取扱いに特に配慮を要するものとして規則で定める記述等が含まれる個人情報をいう。)の記録項目

(6) 個人情報の収集先

(7) 電子計算機処理を行うときは、その旨

(8) 前各号に掲げるもののほか、市長が定める事項

2 前項の規定にかかわらず、実施機関は、緊急かつやむを得ない理由によりあらかじめ届け出ることができないときは、当該個人情報取扱事務を開始し、又は変更した日以後において、遅滞なく同項の例により市長に届け出なければならない。

3 実施機関は、前2項の規定により届け出た個人情報取扱事務を廃止したときは、遅滞なくその旨を市長に届け出なければならない。

4 市長は、前3項の規定により届出があったときは、速やかに当該届出の内容を審議会に報告しなければならない。

5 市長は、個人情報取扱事務について届出に係る事項を記載した目録を作成し、一般の閲覧に供さなければならない。

6 前各項の規定は、実施機関の職員又は職員であった者の人事、給与、福利厚生等に係る個人情報取扱事務については、適用しない。

(適正な維持管理)

第13条 実施機関は、個人情報を取り扱う事務の目的を達成するために必要な範囲内で、個人情報を正確かつ最新のものとするよう努めなければならない。

2 実施機関は、個人情報の漏えい、滅失、改ざん及び毀損の防止その他個人情報の適正な管理のために必要な措置を講じなければならない。

3 実施機関は、速やかに、保有する必要のなくなった個人情報を消去し、又は当該個人情報に係る行政文書を廃棄しなければならない。

4 実施機関は、前3項の事務を処理させるため、個人情報保護の管理責任者を定めなければならない。

(委託に伴う措置)

第14条 実施機関は、個人情報を取り扱う事務を外部に委託しようとするときは、個人情報の保護に関し必要な措置を講じなければならない。

(受託者等の責務)

第15条 実施機関から個人情報を取り扱う事務の委託を受けた者(次項において「受託者」

という。)は、受託した当該事務の処理に当たり、個人情報の漏えい、滅失、改ざん及び毀損の防止その他個人情報の適正な管理のために必要な措置を講じなければならない。

- 2 受託者及び受託した当該事務の処理に従事している者又は従事していた者は、当該事務の処理に当たって知り得た個人情報を他人に漏らし、又は受託した目的の範囲を超えて使用してはならない。

第3章 自己情報の開示等

(自己情報の開示請求)

第16条 何人も、実施機関に対し、自己に関する保有個人情報(以下「自己情報」という。)の開示を請求することができる。

- 2 未成年者又は成年被後見人の法定代理人は、本人に代わって前項に規定する開示の請求(以下「開示請求」という。)をすることができる。

(自己情報の開示義務)

第17条 実施機関は、開示請求があった場合は、開示請求に係る自己情報に次の各号に掲げる情報(以下「不開示情報」という。)のいずれかが含まれているときを除き、当該自己情報を開示しなければならない。

- (1) 法令等の定めるところにより、開示することができないとされている情報
- (2) 開示請求をした者(以下「開示請求者」という。)以外のものに関する情報を含む自己情報であって、開示することにより当該開示請求者以外のものの正当な権利利益を侵害するおそれがあるもの
- (3) 個人の評価、判定、選考、診断、指導、相談、推薦等に関する自己情報であって、本人に知らせないことが正当と認められるもの
- (4) 市の機関と国等の機関との間における協議、依頼等に基づいて実施機関が作成し、又は取得した自己情報であって、開示することにより、国等との協力関係又は信頼関係が損なわれるおそれがあるもの
- (5) 監査、検査、争訟、交渉、契約、試験、調査、研究その他の実施機関の事務又は事業に関する自己情報であって、開示することにより、当該事務若しくは事業又は将来の同種の事務若しくは事業の適正な執行に著しい支障を生じるおそれがあるもの
- (6) 未成年者の法定代理人による開示請求がなされた場合であって、開示することが当該未成年者の利益に反すると認められるもの

(一部開示)

第18条 実施機関は、開示請求に係る自己情報の一部に不開示情報が含まれている場合に

において、不開示情報に該当する部分とそれ以外の部分を容易に分離でき、かつ、それにより開示請求の趣旨が損なわれないときは、当該不開示情報に係る部分を除いて開示しなければならない。

（自己情報の存否に関する情報）

第19条 実施機関は、開示請求に対し、当該開示請求に係る自己情報が存在しているか、又は存在していないかを答えるだけで、不開示情報を開示することとなるときは、当該自己情報の存否を明らかにしないで、当該開示請求を拒否することができる。

（自己情報の訂正、削除及び中止に係る請求）

第20条 何人も、自己情報について事実には誤りがあると認めるときは、実施機関に対し、当該自己情報の訂正を請求することができる。

2 何人も、第6条から第8条までの規定に違反して自己情報が収集されたと認めるときは、実施機関に対し、当該自己情報の削除を請求することができる。

3 何人も、第9条の規定に違反して自己情報の目的外利用等が行われていると認めるときは、実施機関に対し、当該自己情報の目的外利用等の中止を請求することができる。

4 第16条第2項の規定は、前3項に規定する請求（以下「訂正等の請求」という。）について準用する。

（開示請求等の手続）

第21条 開示請求又は訂正等の請求をしようとする者は、実施機関に対し、次に掲げる事項を記載した請求書を提出しなければならない。

（1） 請求区分

（2） 氏名及び住所

（3） 開示請求又は訂正等の請求に係る自己情報を特定するために必要な事項

（4） 前3号に掲げるもののほか、実施機関が定める事項

2 開示請求又は訂正等の請求をしようとする者は、当該請求に係る自己情報の本人又はその法定代理人であることを確認するために必要な書類で実施機関が定めるものを提示し、又は提出しなければならない。

3 訂正等の請求をしようとする者は、実施機関に対し、当該訂正等の請求に係る事実を証明する書類等を提示し、又は提出しなければならない。

4 実施機関は、第1項の請求書が到達したときは遅滞なく審査を開始し、請求書の記載事項、添付書類等に不備がある場合その他の形式上の要件に適合しない場合は、速やかに、開示請求又は訂正等の請求をした者（以下「開示等請求者」という。）に対し相当の期間

を定めて請求書の補正を求め、又は開示請求若しくは訂正等の請求を拒否しなければならない。

（訂正等の請求による停止）

第22条 実施機関は、訂正等の請求があったときは、次条の規定による決定を行うまでの間、当該訂正等の請求に係る自己情報の利用又は提供を停止するものとする。ただし、停止することによって実施機関の事務又は事業の適正な執行に著しい支障を生じる場合は、この限りでない。

（請求に対する決定等）

第23条 実施機関は、開示請求があったときは、当該開示請求があった日から起算して15日以内に当該開示請求に係る自己情報を開示する旨又は開示しない旨の決定を、訂正等の請求があったときは、当該訂正等の請求があった日から起算して30日以内に当該訂正等の請求に係る自己情報の訂正、削除又は目的外利用等の中止（以下「訂正等の措置」という。）を講ずる旨又は講じない旨の決定をしなければならない。ただし、第21条第4項の規定により補正を求めた場合にあつては、当該補正に要した日数は、当該期間に算入しない。

2 実施機関は、前項の決定をしたときは、開示等請求者に対し、速やかに、当該決定の内容を書面により通知しなければならない。

3 実施機関は、やむを得ない理由により、第1項に規定する期間内に同項の決定をすることができないときは、同項に規定する期間を、開示請求については45日、訂正等の請求については60日以内に限り延長することができる。この場合において、実施機関は、開示等請求者に対し、速やかに、延長の期間及び理由を書面により通知しなければならない。

4 実施機関は、開示請求に係る自己情報の全部又は一部を開示しないとき（第19条の規定により開示請求を拒否するとき及び開示請求に係る自己情報を保有していないときを含む。）、及び訂正等の請求に係る自己情報の全部又は一部の訂正等の措置を講じないときは、第2項の規定による書面にその理由を記載しなければならない。この場合において、開示しない旨の決定をした自己情報が、期間の経過により開示することができるようになることが明らかであるときは、その旨を付記しなければならない。

5 実施機関は、開示請求に係る自己情報に市及び開示請求者以外の者（以下「第三者」という。）に関する情報が記録されているときは、あらかじめ、当該第三者の意見を聴くことができる。

（開示等の実施）

第24条 実施機関は、前条第1項の規定により自己情報を開示する旨の決定をしたときは、開示請求者に対し、速やかに、その記録されている行政文書の種類に応じて実施機関が定める方法により当該自己情報を開示しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、実施機関は、自己情報の開示をすることによりその記録されている行政文書の保存に支障を生じるおそれがあるとき、第18条の規定による自己情報の一部を開示するときその他相当の理由があるときは、その写しにより、これを行うことができる。

3 自己情報の開示を受ける者は、当該開示に係る自己情報の本人又はその法定代理人であることを確認するために必要な書類で実施機関が定めるものを提示しなければならない。

4 実施機関は、前条第1項の規定により自己情報の訂正等の措置を講ずる旨の決定をしたときは、速やかに、当該自己情報の訂正等の措置を講じなければならない。この場合において、実施機関は、その旨を開示等請求者及び現に当該自己情報の目的外利用等をしているものに対し通知するものとする。

(費用の負担)

第25条 この条例に基づく自己情報の開示に係る手数料は、無料とする。

2 この条例に基づき自己情報(行政文書を複写したものを含む。)の写しの交付を受ける者は、当該写しの作成及び送付に要する費用を負担しなければならない。

第4章 審査請求

(審理員の指名に関する規定の適用除外)

第26条 この条例の規定による実施機関の処分又はその不作為に係る審査請求については、行政不服審査法(平成26年法律第68号)第9条第1項本文の規定は、適用しない。

(審査請求に係る諮問)

第26条の2 この条例の規定による実施機関の処分又はその不作為に係る審査請求があった場合において、当該審査請求に係る実施機関は、次の各号のいずれかに該当するときは、遅滞なく、津山市行政不服審査会条例(平成28年津山市条例第2号)に基づく津山市行政不服審査会に諮問し、その答申を尊重して、当該審査請求に対する裁決をしなければならない。

(1) 審査請求人から反論書(行政不服審査法第30条第1項に規定する反論書をいう。次号において同じ。)が提出されたとき。

(2) 審査請求人から反論書を提出しない旨の申出があったときその他反論書が提出される見込みがないと当該実施機関が認めたとき。

2 前項の規定による諮問は、行政不服審査法第19条の審査請求書及び同法第9条第3項において読み替えて適用する同法第29条第2項の弁明書の写しその他規則で定める書類及び物件を添えてしなければならない。

3 第1項の規定にかかわらず、次に掲げる場合には、同項の規定による諮問は、することを要しない。

(1) 審査請求が不適法であり、却下する場合

(2) 裁決で、審査請求の全部を認容し、当該審査請求に係る自己情報の全部を開示する場合。ただし、第23条第5項の規定により意見を聴かれた第三者が、当該開示について反対の意思を表示している場合を除く。

(3) 裁決で、審査請求の全部を認容し、当該審査請求に係る自己情報の訂正等の措置をする場合

第5章 事業者が保有する個人情報の保護

(事業者に対する啓発等)

第27条 市長は、事業者における個人情報の適正な取扱いを確保するため、意識啓発その他必要な施策の推進に努めるものとする。

(苦情又は相談の処理)

第28条 市長は、事業者が行う個人情報の取扱いに関する苦情又は相談があったときは、迅速かつ適切に処理するよう努めるものとする。

(説明又は資料提出の要求)

第29条 市長は、事業者が個人情報を不適正に取り扱っている疑いがあると認めるときは、当該事業者に対し、事実を確認するために必要な限度において、説明又は資料の提出を求めることができる。

(勧告又は公表)

第30条 市長は、事業者が個人情報を著しく不適正に取り扱っていると認めるときは、審議会の意見を聴いて、その取扱いを是正するよう勧告することができる。

2 市長は、事業者が前項の規定による勧告に従わなかったときは、審議会の意見を聴いて、その旨を公表することができる。この場合において、市長は、あらかじめ、当該事業者の意見を聴取する機会を設けるものとする。

第5章の2 特定個人情報に関する特例

第30条の2 実施機関が保有し、又は保有しようとする特定個人情報(情報提供等記録を除く。)に関しては、第9条第1号及び第3号から第5号まで並びに第10条の規定は適

用しないものとし、この条例の他の規定については、次の表の左欄に掲げる規定中同表の中欄に掲げる字句は、同表の右欄に掲げる字句とする。

第 9 条の見出し	利用及び提供	利用
第 9 条	利用又は実施機関以外のものへの提供（以下「目的外利用等」という。）	利用
第 9 条第 2 号	本人の同意があるとき	人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意があり、又は本人の同意を得ることが困難であるとき
第 1 1 条	保有個人情報の	保有個人情報（保有特定個人情報を除く。）の
第 1 6 条第 2 項	未成年者又は成年被後見人の法定代理人	未成年者若しくは成年被後見人の法定代理人又は本人の委任による代理人（以下「代理人」という。）
第 2 0 条第 2 項	第 6 条から第 8 条までの規定に違反して自己情報が収集された	自己情報が番号法第 2 0 条の規定若しくは第 6 条から第 8 条までの規定に違反して収集され、若しくは保管されていると認めるとき又は番号法第 2 9 条の規定に違反して作成された特定個人情報ファイル（番号法第 2 条第 9 項に規定する特定個人情報ファイルをいう。）に記録されている
第 2 0 条第 3 項	第 9 条の規定に違反して自己情報の目的外利用等が行われている	自己情報が第 3 0 条の 2 第 1 項の規定により読み替えて適用する第 9 条の規定に違反して利用されていると認めると

		き又は番号法第 19 条の規定に違反して提供されている
	目的外利用等	利用又は提供
第 21 条第 2 項及び第 24 条第 3 項	法定代理人	代理人
第 23 条第 1 項 , 第 24 条第 4 項及び第 31 条第 1 項	目的外利用等	利用
第 31 条第 1 項	開示 , 訂正	訂正

2 実施機関が保有し , 又は保有しようとする情報提供等記録に関しては , 第 9 条ただし書 , 第 10 条並びに第 20 条第 2 項及び第 3 項の規定は適用しないものとし , この条例の他の規定の適用については , 次の表の左欄に掲げる規定中同表の中欄に掲げる字句は , 同表の右欄に掲げる字句とする。

第 9 条の見出し	利用及び提供	利用
第 9 条	利用又は実施機関以外のものへの提供（以下「目的外利用等」という。）	利用
第 11 条	保有個人情報の	保有個人情報（保有特定個人情報を除く。）の
第 16 条第 2 項	未成年者又は成年被後見人の法定代理人	未成年者若しくは成年被後見人の法定代理人又は本人の委任による代理人（以下「代理人」という。）
第 20 条の見出し	訂正 , 削除及び中止	訂正
第 20 条第 4 項	前 3 項	第 1 項
第 20 条第 4 項 , 第 21 条各項 , 第 22 条（見出しを含む。）並びに第 23 条第 1 項 , 第 3 項及び第 4 項	訂正等の請求	訂正の請求
第 21 条第 2 項及び第 24 条第 3 項	法定代理人	代理人

第 2 3 条第 1 項	訂正，削除又は目的外利用等 の中止（以下「訂正等の措置」 という。）を講ずる旨又は講 じない	訂正をする旨又はしない
第 2 3 条第 4 項	訂正等の措置を講じない	訂正をしない
第 2 4 条第 4 項	訂正等の措置を講ずる	訂正をする
	訂正等の措置を講じなければ	訂正をしなければ
	目的外利用等	利用
	に対し	（実施機関が必要と認める場 合にあっては，総務大臣及び 番号法第 1 9 条第 7 号に規定 する情報照会者若しくは情報 提供者又は同条第 8 号に規定 する条例事務関係情報照会者 若しくは条例事務関係情報提 供者（当該訂正に係る番号法 第 2 3 条第 1 項及び第 2 項 （これらの規定を番号法第 2 6 条において準用する場合を 含む。）に規定する記録に記 録された者であって，当該実 施機関以外のものに限る。） に対し
第 3 1 条第 1 項	開示，訂正，削除又は目的外 利用等の中止	訂正

第 6 章 雑則

（他の制度との調整）

第 3 1 条 この条例の規定は，他の法令等（津山市情報公開条例を除く。）の規定により自
己情報の開示，訂正，削除又は目的外利用等の中止の手續が定められている場合について
は，適用しない。

2 この条例の規定は，図書館その他これに類する施設において，一般の利用に供すること

を目的として管理している行政文書に記録されている個人情報については、適用しない。

(運用状況の公表)

第32条 市長は、毎年1回、各実施機関におけるこの条例の運用状況を取りまとめ、公表するものとする。

(公共的団体等への要請)

第33条 市長は、市が出資している法人で規則で定めるものに対し、この条例に基づく市の施策に準じた措置を講じるよう要請するものとする。

(委任)

第34条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、実施機関が別に定める。

第7章 罰則

(罰則)

第35条 実施機関の職員若しくは職員であった者又は第15条第1項に規定する受託業務に従事している者若しくは従事していた者が、正当な理由がないのに、個人の秘密に属する事項が記録された第2条第9号アに係る個人情報ファイル(その全部又は一部を複製し、又は加工したものを含む。)を提供したときは、2年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処する。

第36条 前条に規定する者が、その業務に関して知り得た保有個人情報を自己若しくは第三者の不正な利益を図る目的で提供し、又は盗用したときは、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。

第37条 実施機関の職員がその職権を濫用して、専らその職務の用以外の用に供する目的で個人の秘密に属する事項が記録された文書、図画又は電磁的記録を収集したときは、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。

第38条 偽りその他不正の手段により、開示決定に基づく保有個人情報の開示を受けた者は、5万円以下の過料に処する。

付 則

(施行期日)

1 この条例は、平成15年10月1日から施行する。

(津山市電子計算機処理に係る個人情報保護条例の廃止)

2 津山市電子計算機処理に係る個人情報保護条例(平成元年津山市条例第4号)は、廃止する。

(経過措置)

- 3 この条例の施行の際、現に行われている個人情報取扱事務については、第12条第1項中「新たに開始しようとするときは、次に掲げる事項をあらかじめ」とあるのは「現に行っているときは、次に掲げる事項を速やかに」と読替えて適用する。
- 4 この条例の施行の際、現に実施機関が行っている個人情報の収集、利用及び提供については、この条例の相当規定により行ったものとみなす。

(加茂町、阿波村、勝北町及び久米町の編入に伴う経過措置)

- 5 加茂町、阿波村、勝北町及び久米町(以下「旧町村」という。)の編入により、旧町村から引続き市の実施機関が保有することとなった個人情報の取扱事務の届出その他の手続は、第12条の規定にかかわらず、市長が別に定める日までに行うものとし、これらの手続が完了したものから、この条例を適用する。

付 則(平成15年9月22日条例第19号)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成15年10月1日から施行する。

(特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

- 2 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例(昭和32年津山市条例第3号)の一部を次のように改正する。

別表第1区分の欄中「情報公開審査会委員」を「情報公開・個人情報保護審査会委員」に改める。

付 則(平成17年1月14日条例第4号)

この条例は、平成17年2月28日から施行する。

付 則(平成17年6月29日条例第101号)

この条例は、公布の日から施行する。

付 則(平成27年3月24日条例第7号抄)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成27年4月1日から施行する。

付 則(平成27年9月24日条例第48号)

この条例は、平成27年10月5日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- (1) 第7条第2号、第13条第1項及び第2項、第14条、第15条第1項、第23条第1項及び第4項、第24条第4項並びに第29条及び第30条第1項の改正規定

公布の日

(2) 第 5 章の次に 1 章を加える改正規定 (第 3 0 条の 2 第 2 項に係る部分に限る。)

番号法附則第 1 条第 5 号に掲げる規定の施行の日

付 則 (平成 2 8 年 3 月 2 3 日条例第 3 号抄)

(施行期日)

1 この条例は、平成 2 8 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 行政庁の処分又は不作為についての不服申立てであってこの条例の施行前にされた行政庁の処分又はこの条例の施行前にされた申請に係る行政庁の不作為に係るものについては、なお従前の例による。

付 則 (平成 2 9 年 3 月 2 2 日条例第 4 号)

この条例は、平成 2 9 年 5 月 3 0 日から施行する。ただし、第 2 条中津山市個人情報保護条例第 2 1 条第 1 項の改正規定は、公布の日から施行する。

付 則 (平成 2 9 年 9 月 2 0 日条例第 2 1 号)

この条例は、公布の日から施行する。